

テクノロジスト育成塾 第6回情報交換会

平成23年3月9日

「乾杯の辞」

岡三情報システム株式会社
代表取締役社長 目黒 博

(乾杯に先立ち)

皆さん今晚は。只今ご紹介を頂きました、目黒でございます。

大変に高い席から甚だ恐れ入りますが、ご指名を頂きましたので、乾杯の音頭を取らせて頂きます。

乾杯に先立ちまして、黒岩社長からせつかくの機会なので、何かひとこと気の利いたことを話して欲しいと言われております。

そんな気の利いたことを私は言えないのですが、少しお話をしてみたいと思います。

本日は、79名に及ぶテクノロジストの塾生がご出席と伺っております。

励ましになるかどうか判りませんが、少しだけお話をしてみたいと思います。

(ガートナージャパンの報告書)

先般、ガートナージャパン社が世界のCIO 2014名の調査をしその結果を発表していました。ご出席の皆様の中にもご覧になられた方々がおられるかと思いますが…。

その中で私にとりましては、ちょっとショッキングな内容がありました。

それを少しご紹介したいと思います。

ガートナーによりますと、日本のCIOは世界のCIOと比べて、IT戦略をビジネス戦略に合致させる事が、どうも上手ではないのではないかということなんですね…。

それから、IT戦略をいわゆるCEO(経営)にきちんと説明することに長けていないのではないかと言うんですね…。

そういう風な調査結果が出ていると言うのです。

ここにご出席されているCIOの方々は、先刻、承知で問題ないと思いますが…。

調査結果では、世界のITがビジネス戦略に益々傾注して行って、いわゆるビジネス部門のイノベーションに付随(先ほどの吉岡専務のご講演でも何度も話がでていましたが)して、全く軌を一にしてIT戦略を推し進めているというのです。

それに比べ、日本のITは相変わらずレガシーな業務改革に勤しんでいるとのこと。

このようなことで、近い将来、日本の企業の競争力もITの戦略の弱さが足を引っ張るのではないかと懸念を示している…と結んでいるのです。

(C I Oとして)

私のようなC I Oの端くれとしては、はなはだ耳が痛い話です。

とかく当社もそうですが、I T部門はビジネス部門の下請け的な要素で、仕様変更はしょっちゅうあるし、しょっちゅうビジネスの課題を突きつけられて、アップアップしているような状態ではないでしょうか。

自らビジネスの課題を創出していくような土壌になかったのではないかと私は思っております。

(塾生への期待)

その中でテクノロジスト育成塾は、まさにS Eからシステムコンサルタントへの脱皮を促し、(先ほどのお話にも何回も出ていましたが) 経営目線で新しいビジネス、儲かるビジネスの仕組みを創出する…と私共の塾生はそのように言っておりますが、当たっているでしょうか？

ここがポイントで「新しい、儲かる仕組みをシステムで創出する」ことをテーマに掲げておられるようで、大変に感銘を受けているところでございます。

まさに、私のようなC I Oは多分直ぐに駆逐されて、本日お集まりのようなテクノロジストを卒業された塾生の方々が、近い将来、先程のアンケートに出てくるような世界の最先端のC I Oに就かれる日が近いのではないかとそのように思っております。

是非、今日ご出席の塾生の方々は益々ご研鑽されまして、新しい儲かるビジネスを創出するC I Oになって頂きたいと期待しておることを申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。

(乾杯)

少し話が長くなり、ビールがぬるくなったのではと心配ですが、乾杯の音頭を取らせて頂きます。

グラスをご準備下さい。

本日お集まりの皆様の益々のご健勝と各社さまの益々のご繁栄、そして、このテクノロジスト育成塾が、益々ご発展することを切にお祈り致しまして乾杯したいと思います。

「かんぱーい」

どうもありがとうございました。

(拍手…)

(以上)